

定義 2.11 (Hesse行列) p_0 が $f: M \rightarrow \mathbb{R}$ の臨界点であるとき, 次の $m \times m$ 行列

$$(2.19) \quad H_f(p_0) = \begin{pmatrix} \frac{\partial^2 f}{\partial x_1^2}(p_0) & \cdots & \frac{\partial^2 f}{\partial x_1 \partial x_m}(p_0) \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ \frac{\partial^2 f}{\partial x_m \partial x_1}(p_0) & \cdots & \frac{\partial^2 f}{\partial x_m^2}(p_0) \end{pmatrix}$$

を臨界点 p_0 における関数 f の Hesse 行列という.

i, j 行列のところに, $\frac{\partial^2 f}{\partial x_i \partial x_j}(p_0)$ を並べた行列が Hesse 行列である.

$$\frac{\partial^2 f}{\partial x_i \partial x_j}(p_0) = \frac{\partial^2 f}{\partial x_j \partial x_i}(p_0)$$

であるから, Hesse 行列は対称行列である.

臨界点 p_0 のまわりの別の局所座標系 (y_1, y_2, \dots, y_m) をとって f の 2 階微分を計算したものと, もとの (x_1, x_2, \dots, x_m) で計算したものとを比べると,

$$(2.20) \quad \frac{\partial^2 f}{\partial y_h \partial y_k}(p_0) = \sum_{i,j=1}^m \frac{\partial x_i}{\partial y_h}(p_0) \frac{\partial x_j}{\partial y_k}(p_0) \frac{\partial^2 f}{\partial x_i \partial x_j}(p_0)$$

という関係がある. したがって, 次の補題を得る.

補題 2.12 臨界点 p_0 のまわりに 2 つの局所座標系

$$(y_1, y_2, \dots, y_m) \text{ と } (x_1, x_2, \dots, x_m)$$

をとり, それらによって計算した $f: M \rightarrow \mathbb{R}$ の Hesse 行列をそれぞれ $\mathcal{H}_f(p_0)$ と $H_f(p_0)$ とすれば,

$$(2.21) \quad \mathcal{H}_f(p_0) = {}^t J(p_0) H_f(p_0) J(p_0)$$

が成り立つ. ここに, $J(p_0)$ は, (y_1, y_2, \dots, y_m) から (x_1, x_2, \dots, x_m) への座標変換にとりなう Jacobian 行列を点 p_0 で計算したもので, 具体的には,

$$(2.22) \quad J(p_0) = \begin{pmatrix} \frac{\partial x_1}{\partial y_1}(p_0) & \cdots & \frac{\partial x_1}{\partial y_m}(p_0) \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ \frac{\partial x_m}{\partial y_1}(p_0) & \cdots & \frac{\partial x_m}{\partial y_m}(p_0) \end{pmatrix}$$

で与えられる